

# 部活動指導員拡充へ検定試験

中学、高校の部活動で、顧問教員がいなくても実技指導や試合の引率ができる人材を増やすことをめざし、部活動指導員の検定試験が行われることになった。部活動が抱える問題解消に取り組み一般社団法人「日本部活指導研究協会」が、3月に初めての試験を実施する。

部活動指導員は、教員の負担軽減や専門性が高い指導の質向上などを目的に、2017年に制度化された。民間クラブの指導者や元

## 指導歴に応じて4段階

教員、大学生といった外部人材を、各校長の推薦などで自治体が任用する形だ。しかし、責任の重さや、学校と地域の競技団体とのつながりの薄さなどから、人材不足に苦しむケースが多い。

検定では、国が策定した部活動指導のガイドラインや学校教育への理解、救急救命などに関する講習を受け、試験に臨む。指導歴に応じて、3級、2級、1級、上級の4段階の資格を得られる。

東京都立高の教員を18年経験

し、15年に同協会を設立した中屋晋・代表理事は、「指導員育成の仕組みをつくり、全国的な名簿が競技別にできれば、自治体からの紹介要請に応じられる。指導員をほしい人には、検定の合格で自身の存在を自治体にアピールする材料になる」と話す。

3級を認定する最初の試験は、3月15日に東京都新宿区で行われ、以後、年3回を予定。オンライン受験の体制も整えるという。申し込みは、同協会のホームページ (<https://bukatsujapan.jp/indofree.com/>) からできる。(編集委員・中小路徹)